

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 3 月 7 日

【評価実施概要】

事業所番号	3610125340
法人名	医療法人 東洋病院
事業所名	グループホーム千寿園
所在地	徳島県徳島市北島田町1丁目126番地6 (電話) 088-632-7778

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成 21 年 3 月 7 日

【情報提供票より】(平成 21 年 1 月 15 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 3 月 3 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤:12人、非常勤:1人、常勤換算:せんりょう6.5人 まんりょう6人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000~27,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費:10,500円、その他:実費	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有の場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	450 円	おやつ	50 円
	または1日当たり		1,050 円	

(4) 利用者の概要 (平成 21 年 1 月 15 日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名	
要介護1	5 名	要介護2	6 名			
要介護3	3 名	要介護4	3 名			
要介護5	1 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	86.5 歳	最低	76 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 東洋病院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、吉野川に沿った高台の静かな環境の中にある。玄関前には季節の花が植えられ明るい雰囲気である。玄関を入ったすぐの広いホールでは、身体機能の向上や寝たきり予防の取り組みとして利用者と職員が共に話し合っけて振り付け等を決めたリハビリ体操や千寿園ソングの合唱を毎日にぎやかにしている。利用者は入浴後、職員の支援のもと各自で洗濯を行っている。医療連携体制の整備や地域との十分な連携により、安心な生活が送れている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での主な課題である「地域密着型サービスとしての理念」、「理念の共有と日々の取り組み」、「運営推進会議を活かした取り組み」の項目については、全て改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営者や管理者、職員は評価の意義を理解し、自己評価は定例会議において話し合い、作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者や家族、町内会長、地域包括支援センター職員、協力医療機関職員、居宅介護支援事業者、事業所関係者が参加している。会議では、事業所の現状報告、災害時の避難場所や備蓄、行事についての意見交換、医療や認知症についての説明等を行っている。会議録は全職員に回覧して確認印・サインを行い、内容を共有している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	月に1度は家族と話し合う機会をもち、利用者の健康状態や金銭出納の報告を行っている。また面会時や家族会、運営推進会議等の際に、意見や苦情等を何でも言ってもらえるよう雰囲気づくりに配慮している。出された意見や相談等は勉強会やスタッフ会議において話し合い、迅速に対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の保育園児の来訪が2か月ごとにあり、事業所の畑での芋掘り大会を開催するなどしてふれあいを楽しんでいる。事業所の畑で収穫した野菜を近隣の方にお裾分けしたり、地区の敬老会やお祭りに参加するなどして地元の方たちとの交流を盛んに行っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前回の外部評価後に理念を見直している。利用者が地域の中で健康で明るく、安心と尊厳のある生活を送ることを支える理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員、利用者と共に考え、一日1回読み上げている。管理者や職員は理念を共有して実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の保育園児の来訪が2か月ごとにあり、事業所の畑での芋掘り大会を開催するなどしてふれあいを楽しんでいる。事業所の畑で収穫した野菜を近隣の方にお裾分けしたり、地区の敬老会やお祭りに参加するなどして地元の方たちとの交流を盛んに行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者や管理者、職員は評価の意義を理解し、自己評価は定例会議において話し合い、作成している。外部評価結果についても全職員で話し合い、課題を改善し、より良いケアを目指している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者や家族、町内会長、地域包括支援センター職員、協力医療機関職員、居宅介護支援事業者、事業所関係者が参加している。会議では、事業所の現状報告、災害時の避難場所や備蓄、行事についての意見交換、医療や認知症についての説明等を行っている。会議録は全職員に回覧して確認印・サインを行い、内容を共有している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議で出された地域からの質問に対して、事業所として答えられない事例を市に相談している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1度は家族と話し合う機会をもち、利用者の健康状態や金銭出納の報告を行っている。金銭出納簿には家族の確認印・サインがある。また毎月「千寿園だより」を発行し、行事や活動内容を記事にして家族に配付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、意見や苦情等を何でも言ってもらえるよう雰囲気づくりを配慮している。出された意見や相談等は勉強会やスタッフ会議において話し合い、迅速に対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職はほとんど無く、利用者とは馴染みの関係が築かれている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を立て、法人内外の研修に参加している。研修報告書は全職員に回覧し、情報の共有化を図っている。また職員の資格取得についても勉強会を行うなど取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム協会徳島県支部の研修会等に参加し、同業者との交流を図り、情報・意見交換を行っている。勉強会の報告書は全職員に回覧して共有し、サービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に利用者や家族にできるだけ事業所での生活を体験してもらい、納得されたうえで入居に繋げている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と話し合い共に行う作業の中で畑仕事や料理、手紙の書き方、掃除の仕方、礼儀作法等多くのことを学び、ともに支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の関わりの中で利用者の言葉や表情等から一人ひとりの思いや暮らし方の希望を把握するように努めている。思いを訴えることが困難な利用者には、日々の表情の変化や行動に注意して介護記録に記入し、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアチェック表をもとにして利用者や家族、職員間で話し合い、希望や意向を反映した介護計画を作成している。計画書には利用者・家族の確認印・サインがある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に1回はカンファレンスを開催して職員間で話し合い、期間に応じた介護計画の見直しを行っている。利用者の状態に変化が生じたときにはそのつど、本人や家族と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を整備し、利用者や家族の状況、希望にそって外出や外泊、通院時の送迎等も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望にそったかかりつけ医の受診を支援している。また併設病院と連携し、利用者の症状に応じた適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や看取りに関する指針や同意書を作成し、利用者や家族の希望に対応できるよう全職員で方針を共有している。家族には協力病院の医師が定期的な現状と緊急時の説明を行い、そのつど話し合っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者一人ひとりに合わせた言葉遣いで接し、誇りを尊重しつつ気兼ねの無い会話が交わされている。また、個人情報の保護についてはマニュアルにそった適切な取り扱いを行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日のリハビリ体操やゲーム等は一人ひとりのペースを大切にして、希望にそって参加を支援している。行事等は利用者とは話し合い、希望にそって予定を立てている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は共に準備や後片づけを行い、食事と一緒に食べている。食材には事業所の畑で収穫した新鮮な野菜を使い、食事が楽しめるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者の希望にそって支援している。体調不良時には、足浴や清拭等の支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	朝の掃除や食事の用意、畑仕事、洗濯などを分担したり、字の上手な方に展示物を書いてもらうなど、場面に応じて利用者の能力を活かした支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりの体調やペースに合わせて、散歩や買い物などの日常的な外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関を開放し、鍵をかけないケアに取り組んでいる。帰りたいと玄関まで出て行く利用者には、職員がさりげなく付き添って安全に配慮し、外を歩いてくる事もある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は法人と合同で年2回実施している。災害時のマニュアルを作成し、また対応等はスタッフ会議で話し合い、利用者とも再三話し合っって実践的な演習を繰り返し行っている。地域の協力も得られるようになっており、連絡網も整備されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士からアドバイスを受け、減塩食など利用者の体調にあわせた個別のメニューを取り入れることもある。水分や食事摂取量は介護記録に記入し、一人ひとりに応じた支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りは季節の花でガーデニングされ、温かい雰囲気である。壁面には1か月ごとに利用者で作成した手作りのカレンダーや保育園児との交流写真、また、利用者の似顔絵等が貼ってあり心を和ませる。リビングには畳のコーナーがあり、テーブルとソファも置かれ、利用者がくつろげる場所となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた筆筒や仏壇を置いている方や冷蔵庫、テレビ等持ち込まれている方もいる。絵手紙や家族の写真などをさりげなく飾った部屋もあり、利用者一人ひとりが落ち着いて暮らせるよう工夫している。		